

同志社大学大学院総合政策科学研究科技術・革新的経営専攻の趣旨・目的に関する総括的評価・所見

1. 技術・革新的経営専攻の教育理念、目的、教育目標

総合政策科学研究科技術・革新的経営専攻（一貫制博士課程）は、自然科学、現代科学、人文・社会科学の文理融合型教育を通して、技術とイノベーションのマネジメント、およびそのための人と組織のあり方について、広い視野に基づく政策科学的な対処を可能にする能力を涵養する。そして、科学・技術を社会の well-being の向上に結びつけていくことを理念として、教育研究者はもとより、企業において技術およびそれに広く関連する戦略の策定と実施に従事する人材、およびイノベーションシステムの構築に携わる人材を養成することを目的としている。これら本専攻の教育理念、目的、教育目標は、本研究科独自のホームページやパンフレット、大学発行の「大学院案内」等で広く公表している。

2. 教育課程の内容・方法等

本専攻は、幅広い文理の学問分野の融合を通して、科学・技術の本質を正しく理解し、広い視野に基づく政策科学的な対処を可能にする、高度な知識や能力を付与する教育活動を展開している。課程前半の2ヵ年間では、自然科学と人文・社会科学の諸課題に的確に対応するために必要となる基礎的な知識、技術、研究能力を養成している。また後半の3ヵ年間では、博士論文作成に関わるさまざまな研究課題の遂行を通じて、前半2ヵ年で修得した知識と技術を量質ともに深め、現代社会における科学技術の諸問題を多様な視点から解析することにより、新たな学問分野を開拓する国際社会で活躍できる人材の養成を目指している。

平成23年度は、技術・革新的経営専攻の全専任教員および他研究科の関係教員の参加による合同演習（TIM 特殊研究S）を春秋両学期に開催し（春学期—7月3日（日）及び7月17日（日）、秋学期—12月11日（日）及び平成24年1月8日（日））、多様な専門分野の教員による研究指導の機会を設ける。なお、在学生の多くが社会人であり、これまでの実務経験や研究業績を踏まえ研究指導を行うとともに、勤務状況等の事情を考慮し、利便に配慮した指導を行っている。

3. 施設・設備等の整備

本研究科では、大学院生共同研究室15室および大学院生用ラウンジ6室を配置している。大学院生用共同研究室には、大学院生用の机、椅子、ロッカー、書棚等114名分を備え付けており、技術・革新的経営専攻の大学院生もこれらを有効に活用している。図書については、今出川校地の大学図書館、京田辺校地のラーネッド記念図書館以外に大学院共同図書室・情報処理室を、さらに本研究科独自に図書室を設け、学生の利用に供している。技術・革新的経営専攻の学生の教育に資するために、文理両領域にわたる専門図書を取り揃え、学生の研究関心に対応した図書の利用機会提供を進めている。

4. 学生の受け入れ

平成23年度大学院入学試験において、技術・革新的経営専攻の志願者は2名、合格者0名であり、課程後半への転入学に志願した者3名（全員社会人）、合格者1名（社会人）であった。昨年度は学部卒業の志願者の確保をめざし今出川校地に加えて京田辺校地においても入学試験説明会を開催したが、本年度は日英両言語による専攻ホームページを開設し志願者数の拡大に努める。また本年度は、関東方面でもパンフレットを配布し、社会人学生の募集をさらに強化する予定である。なお、平成24年度は、本年9月および来年2月に入学試験の実施を予定している。

また、平成21年秋季学期に創設されたビジネス研究科グローバルMBAコースより平成23年9月に初めての修了生が出ることから、同修了生を総合政策科学研究科技術・革新的経営専攻（5年一貫制博士課程）の3年次秋学期に数名程度受け入れる転入学制度を平成23年度秋学期より設ける。なお、本年5月にグローバルMBAコース修了予定者に対する入試説明会を開催することを予定している。

5. 総括

以上のとおり、本専攻の設置の趣旨・目的については、適正に達成している。